

平成30年度  
総合問題  
(生活科学科 食物栄養専攻)

9 : 30 ~ 11 : 00

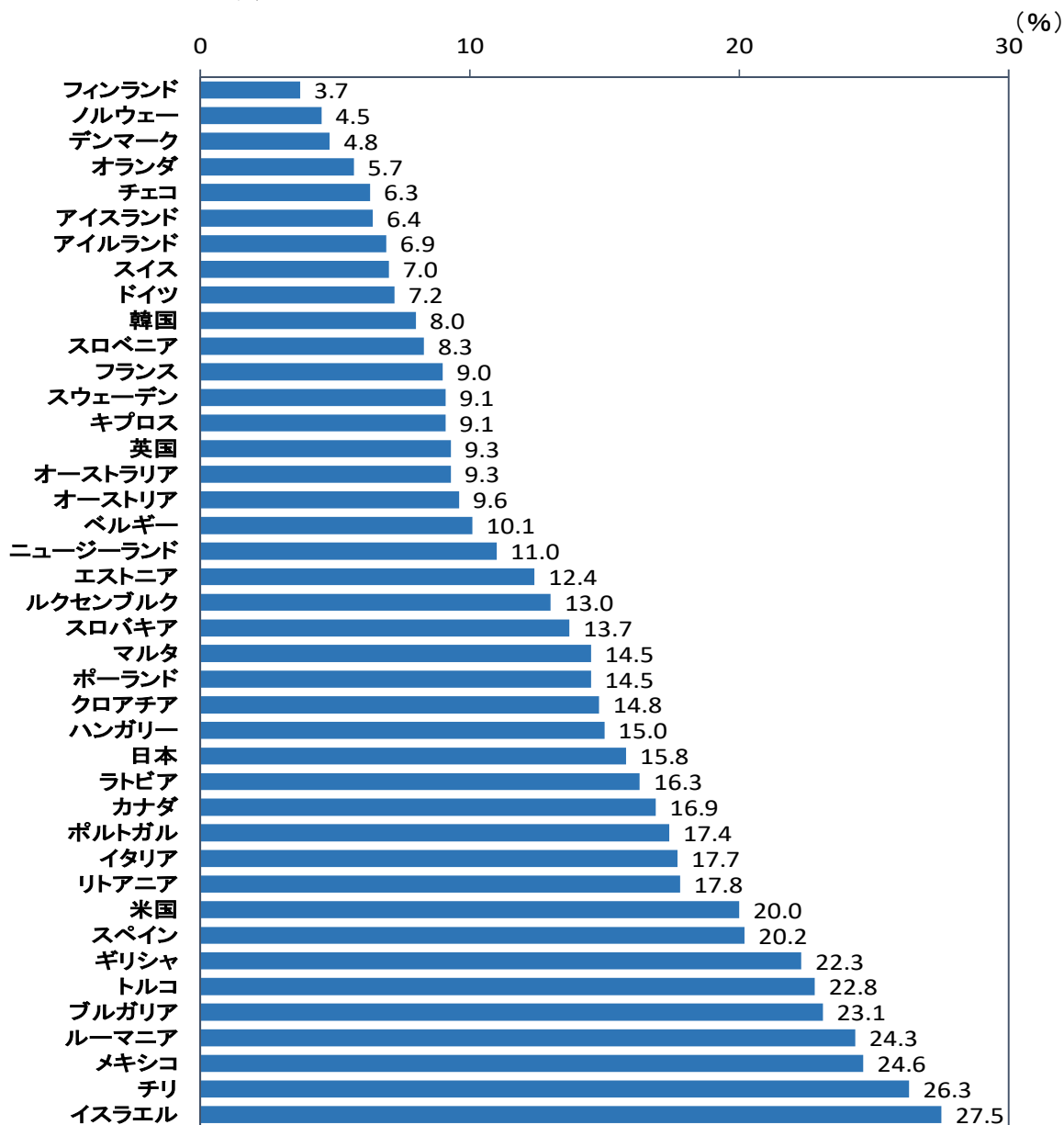
注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があったら、まずページ数、枚数を確認し（足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること）、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白は、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

課題

近年、日本においても貧困問題に注目が集まっている。資料A・B、図1・2、表1・2は、国内外の子どもの貧困に関連する資料である。後の問いに答えなさい。

図1 子どもの貧困率（世帯所得の中央値の50%を下回る世帯の子どもの割合）



(UNICEF Office of Research-Innocenti, *UNICEF Innocenti Report Card 13 Children in the Developed World, Fairness for Children: A league table of inequality in child well-being in rich countries*, 2016, p. 4 より作成)

## 資料 A

### Inequality, fairness and children

Questions of fairness and social justice have a special resonance when inequalities among children, rather than adults, are the focus of attention.

Social inequalities among adults may be justifiable if they have arisen through fair competition and under conditions of equality of opportunity. But when it comes to children, the social and economic circumstances they face are beyond their control, and so differences in merit cannot reasonably be advanced as justification for inequalities among them.

In addition, few dispute that childhood experiences have a profound effect not only on children's current lives, but also on their future opportunities and prospects. Likewise, social and economic disadvantages in early life increase the risk of having lower earnings, lower standards of health and lower skills in adulthood. This in turn can perpetuate disadvantage across generations. None of this is the fault of the child.

(UNICEF Office of Research-Innocenti, 前掲書, p. 2)

注 : inequality	不平等, 格差
social justice	社会正義
resonance	意味合い
justifiable	正当化できる
justification	正当化
likewise	同様に
perpetuate	永続化する, 根付く

表 1 所得と生活習慣等に関する状況（20歳以上）

	世帯所得 200万円未満		世帯所得 200万円以上～ 600万円未満		世帯所得 600万円以上		200万円 未満	200万円 以上～ 600万円 未満	
	人数	平均	人数	平均	人数	平均			
食生活	穀類摂取量（男性）	423	535.1g	1,623	520.9g	758	494.1g	★	★
	（女性）	620	372.5g	1,776	359.4g	842	352.8g	★	
	野菜摂取量（男性）	423	253.6g	1,623	288.5g	758	322.3g	★	★
	（女性）	620	271.8g	1,776	284.8g	842	313.6g	★	★
	肉類摂取量（男性）	423	101.7g	1,623	111.0g	758	122.0g	★	★
	（女性）	620	74.1g	1,776	78.0g	842	83.9g	★	★

注：★は世帯所得 600 万円以上の群と比較して、他の群との間に統計学的に差のあった項目。

（厚生労働省健康局がん対策・健康増進課 栄養指導室  
『平成 26 年国民健康・栄養調査報告』2016 年，p. 33 より作成）

図 2 貧困層，非貧困層の子どもの入院率

【省 略】

注：厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査」（2001～2007 年）のデータを基に集計。  
貧困層とは、第 1 回の対象世帯のうち、世帯所得の中央値の 50%を下回る世帯。

入院率とは、調査時点から過去 1 年間に入院した経験がある子どもの割合。

（阿部彩「子どもの健康格差の要因－過去の健康悪化の回復力に違いはあるか－」

『医療と社会』2013 年，Vol. 22 No. 3，p. 261 より作成）

表2 子どもの貧困率の格差（2012年）

順位	1	2	3	4	5
都道府県	沖縄	大阪			北海道
貧困世帯数	51,202	161,914			86,114
総世帯数	136,600	742,500			437,000
貧困率（%）	37.5	21.8			19.7

順位	43	44	45	46	47
都道府県	島根	滋賀		富山	福井
貧困世帯数	4,495	11,298		5,109	3,315
総世帯数	48,600	130,700		84,500	60,400
貧困率（%）	9.2	8.6		6.0	5.5

注：子どもの貧困率とは、18歳未満の末子がいる世帯のうち、最低生活費以下の収入しか得ていない世帯の割合のことである。

（戸室健作「都道府県別の貧困率，ワーキングプア率，子どもの貧困率，捕捉率の検討」

『山形大学人文学部研究年報』2016年，第13号，pp.33～53より作成）

資料B

沖縄 子ども3割「貧困」

【省略】

注：パーセントで表された数字同士の差を表す単位。（総務省統計局）

(上遠野郷「沖縄 子ども3割「貧困」」『朝日新聞』2016年2月21日より作成)

問1 図1と資料Aは欧州連合(EU)または経済協力開発機構(OECD)に加盟する41か国における子どもの貧困を国際比較し、貧困の現状について述べたものである。日本と世界の子どもの貧困について200字以内で述べなさい。

問2 表1から読み取れる特徴を100字以内で述べなさい。

問3 図2から読み取れる特徴を100字以内で述べなさい。

問4 下の表から計算式を示して「子どもの貧困率」を計算し、表2の3位、4位、45位の空欄を埋めなさい。

都道府県	青森	茨城	三重	福岡	鹿児島
貧困世帯数	17,425	19,558	15,040	83,464	29,449
総世帯数	99,000	228,100	157,900	418,800	142,800

(戸室健作, 前掲論文, p.47より作成)

問5 あなたが栄養士だとしたら、貧困が子どもの食生活および健康に及ぼしている影響を軽減するためにどのような取り組みを考えますか。全ての図, 表, 資料を参考にし、400字以内で述べなさい。



